

保育総合研究会 2021年度

News5

New VOL.26 2021. 9. 1

(2020年度21号)

発行人 保育総合研究会 会長 坂崎 隆浩
発行元 事務局長 社会福祉法人 聖心会
第2聖心保育園 園長 永田久史

〒574-0014 大阪府大東市寺川 1-20-1

Tel 072-874-0981 Fax 072-874-0982

E-mail zenkichi@apricot.ocn.ne.jp

発行人 保育総合研究会 会長 坂崎 隆浩

発行元

全国会員数 97名

<http://hosouken.xii.jp/hskblog>

報告☆公開保育アンバサダープロジェクト/8月30日(月)10:00~17:00

公開保育アンバサダー資格取得研修(35名)が始まりました。1日目のオンライン研修が司会/勇先生の進行の下、始まりました。講師には那須先生(マネジメント/福岡中村学園)、続いて矢野潔子先生(乳児教育/静岡大)、そして我らの樫沢先生(幼児教育/保総研)の6時間と濃い内容の上、とても久しぶりに楽しい研修でした。個人的には、対面で行えるようになれば、是非とも定例会の講師にお呼びしたいと思っている逸材でした。

さてコロナが止まりません。今をどう懸命に生きるか(この厳しい状況の打破)に対しては、本当に当分の間頑張るしかありません。なかなか出口の無い作業ですが、私達園の理事長や園長が厳しさを乗り越える覚悟を持たなければならないと思います。尚、急遽ですが9/10(金)に保育制度部会主催で保育三団体緊急要望等(コロナ対応・人事院勧告等/ラストに載せておきます)について説明会をします。1時間程度ですので、出来れば皆さんお聴きください。

一方、今をどう懸命に生きるかとともに、私は、「不要不急」の先の世界を想像していくように考えたいと思います。語る、踊る、食べる、集うといったものは社会や地域における暮らしであり、それは小さな不要不急の組み合わせでしかありません。暮らしを少しずつでも取り戻していけるように、暮らしの為の想像力を広げていく作業が子どもの未来を取り戻すことではないかと考える毎日です。樫沢前会長とお話しをして、本年度中には「おジャマーズの結成」をもくろんでいます。是非ともこちらもご協力を賜ればと思います。(坂崎)

9月 それでは9月以降の今後の予定について月別でお知らせします

9月10日(金)13:30~14:30 第2回 保育制度委員会主催「コロナ及び人事院勧告対応について」

コロナが収まりません。それどころか全国各地で多くの休園が続いています。又、本年度は昨年度賞与0.05%カ月減の3倍の下げ率はその3倍の0.15カ月対応も考えます。保育三団体の緊急要望も含め、今後の活動等の説明を坂崎がします。

9月13日(月)14:00~16:00 第7回 保育科学会議

自己評価チェックシート/内容については会員全員にメールにて届けています。調査・研究は私達の心臓部です。尚ペセラは2022香港2023インドネシアそして2024はいよいよ日本だ。

9月28日(火)10:00~17:00 公開保育アンバサダー資格取得研修 2日目 オンライン 6時間研修

司会 斎藤 講師 保総研公開保育方法論(坂崎)+ファシリテーション(北野先生)

只野先生・椋沢伊知郎先生・椋沢先生・伊東先生・田和先生にデモを行ってまいります。

※北野先生は研修後に保育科学の助言者として参加してもらい最終案を作成します。

9月28日(火)17:30~ 第8回 保育科学会議→北野先生も参加します。

9月29日(水)13:30~ 三役会 議案:10月定例会・年次大会等について

10月-11月 定例会には秋田先生の登場や 7 プロポジション説明会などあります。

10月 6日(水)16:00~18:00 第72回 定例会 講師 秋田喜代美 先生(学習院大学)

内閣府子ども子育て会議委員長 内容「今後の幼児教育の動向について」

※久しぶりの秋田先生の登場です。現在行われている文科省の架け橋プロジェクトのお話でも聞きたいと思います。

10月14日(木) 保育総合研究会の日 → 坂崎・永田で企画中です。そろそろご協力依頼をします。ウフフ

10月18日(月)10:00~ 公開保育 保育アンバサダー会議 公開保育モデル事業+飯塚・塩坂

※保総研としての公開保育の方法、書式などの最終案の会議となります。

公開保育アンバサダープロジェクト委員+只野・椋沢伊知郎・椋沢さやか氏の参加を依頼します。

又、塩坂さんと塩坂さんを通してプリプリ編集部長の飯塚さんにも参加してもらえたら有難いです。

11月15日(月)9:20~15:30 7プロポジション 研修

11月16日(火)9:20~15:30 同上

※最終頁に案を載せます。発表者はそれぞれご確認ください → 10 月末位までには資料を各自作っておいてください。

新入会員の募集➡今の内から進めていく

新入会員を募集していきます➡今後、特にコロナ後の動きの中で、保総研の活躍を

沢山の人達と一緒に行っていきたいと思います。来年度の大きな事業の一つしたいと思います。

その他

1)10月には東ヶ崎前事務局長を通しておジャマーズ結成の調査をしたいと思います。是非ご協力ください

2)11月11日(木)・12日(金) 青森県キャリアアップ研修に zoom にて誰でも参加できます。

椀沢さやかさん担当です。2 日間 15 時間

講師 堀科先生 馬場耕一郎先生 椀沢先生 坂崎 会費は 4000 円 近くになったら研修ご案内します。

今後 月1回の三役会、年間4回程度の役員会にて事業等の内容を決定します。

三役会10名 : 正副会長6名、部会長2名、事務局2名

役員会34名 : 正副会長6名、理事9名、監事2名、事務局9名、ジャミーズ3名 顧問・相談役状況に応じて出席依頼

全く決まっていますが、10月14日(木)は保育総合研究会の日/令和4年2月位 集合での年次大会を予定

※もちろんその前にワクチン接種 2 回経て後、11 月前半には三役会等を集合で行ってみたいと思います。

提供:保育総合研究会/保育 Ambassador 坂崎隆浩の保育 Stand by you「空飛ぶラジオ」

下記のどれからでも聞けます 番組内容などの案内サイトはこちら→ <https://pchann.jimdofree.com/>

☆apple podcast/

<https://podcasts.apple.com/jp/podcast/%E5%9D%82%EF%A8%91%E9%9A%86%E6%B5%A9%E3%81%AE%E4%BF%9D%E8%82%B2stand-by-you/id1562073430>

☆spotify

<https://open.spotify.com/show/7h7gKV6dbjyOUPDTkHiB5U>

☆google podcast

<https://www.google.com/podcasts?feed=aHR0cHM6Ly9hbmNob3IuZm0vcy81NTY5OGMxNC9wb2RjYXN0L3Jzcw==>

さて保総研の皆様へ/情報は自分できちんと聞いて整理する習慣をつけましょう

➡8/15の会は森田全副会長の出演があります。楽しいですよ。

この広報に対する内容については下記に電話等でご連絡を頂けると有難いです。

担当:〒039-4222 青森県下北郡東通村砂子又大字沢内 9-35

保育総合研究会 会長 坂崎隆浩 携帯:090-6252-3699 メール/kodomoen.sakazaki@angel.ocn.ne.jp

(こども園ひがしどおり) FAX: 0175-31-0203

☆「令和3年度日本保育協会保育界」テーマ『「見通しを持った保育」と「保育の振り返り」を考える』継続中
是非とも読んでください☆公開保育の担当部局の委員を募集しています。手伝って下れば幸いです。

プリプリ執筆次頁の紫色は現在執筆者、その次の令和4年度の表に従って進めていきます。

2委員会	委員長	事務局	副委員長/委員はジャミーズ	担当副会長	役員担当事務局	アドバイザー
広報・PR	高月 美穂	◎榎沢伊知郎 松永和孝	◎吉本大樹◎加藤要樹 ◎本田小百合◎青木恵里 佳◎坂崎力紀	◎田和由里子	◎筒井桂香 菊池 涉 (J)	只野裕子・本田 一幸・藤崎 貴英
保総研 法人検討	伊東 俊樹 <small>基本2年間で検討</small>	◎打田公平 倉内真理	◎打田公平◎菊池晃 ◎今野真洋	◎田中 啓昭	◎菊地義行 土山雅之 東ヶ崎拓樹(J)	田口威 ・遠藤浩正・今野真保・東ヶ崎静仁・ 東口房正

公開保育	担当講師	担当副会長	担当委員	担当事務局
アンバサダープロジェクト担当部局(委員)	榎沢幸苗・坂崎隆浩	矢野理絵・ 田中啓昭	永田裕貴子・斎藤奈緒美	◎田口侑平・◎勇まり子・菊池涉・東ヶ崎拓樹 (J)

プリプリ担当一覧▶加筆・訂正 赤入れ作業				◎全体/桜沢	計画/坂崎				
年齢	認可保育0歳児	認可保育1歳児	保育2歳児	認可園2歳児	認可保育3歳児	認可保育4歳児	認可保育5歳児	食育計画 2枚	安全計画 2枚
添削担当者	福澤紀子	打田修子	桜沢香澄	桜沢幸苗	田和由里子	矢野理絵	只野裕子	坂崎隆浩	遠藤浩平
執筆者一覧	認可保育0歳児	認可保育1歳児	保育2歳児	認可園2歳児	認可保育3歳児	認可保育4歳児	認可保育5歳児	食育計画 2枚	健康安全計画 2枚
2021/令和3年9人	田中 啓昭	永田 久史	隅崎 哲也	坂崎 隆浩	照井ゆかり	永田裕貴子	平山 猛	藤崎 貴英	桜沢伊知郎
令和4年度執筆予定	東ヶ崎静仁	伊東 一男	上原 隆寛	吉本 大樹	古川 豊	菊池 晃	松永 和孝	打田 修子	勇 まり子
令和5年度執筆予定	桜沢さやか	筒井 桂香	青木恵里佳	菊地 義行	矢野 理絵	坂崎 力紀	本田 小百合	田口 威	東口 房正
令和6年度執筆予定	田和由里子	遠藤 浩正	遠藤 浩平	岩橋 道世	土山 雅之	只野裕子	高月 美穂	加藤 要貴	藤井みはと
令和8年度執筆予定	藤崎 貴英	滝田 昌孝	川嶋 真諒	今野 真保	福沢紀子	渡辺信之	東口 房正	田中 啓昭	永田 久史
令和9年度執筆予定	桜沢さやか	加藤 要貴	田口 威	打田 修子	桜沢伊知郎	勇 まり子	藤井みはと	隅崎 哲也	坂崎 隆浩

7 プロポジション研修会(案)◆Contents 1日目

1日目 11月15日(月) 午前の部 9時20分～12時00分 担当 保育制度部会 副部長 坂崎力紀

開会の言葉 部長 保総研会長挨拶

9時20分～9時30分

第1章 人口動態から考える乳幼児教育・保育の課題と解決へのアプローチ

- 今後の人口動態と2040年の社会のあり方 (松永和孝/熊本県)
2040年以降も持続可能な日本社会の創成 9時30分～9時45分
 - 人口減少時代の乳幼児教育・保育の環境等 (今野真洋/秋田県)
公定価格の見直しと過疎地域の保育の質の高さを証明する 9時45分～10時00分
 - 省庁再編の必要性～子ども家庭省の創設その経過をどう考えるか(坂崎力紀/青森県)
子ども家庭省の創設を早急にすべきである 10時00分～10時15分
 - Society5.0を見据えた幼児教育の今後の課題 (栂沢伊知郎/青森県)
技術革新による保育の「質による発展」を望む 10時15分～10時30分
- 質疑応答 10時30分～10時40分 休憩 10時40分～10時50分

第2章 これからの乳幼児施設の役割

- どのような教育・保育を提供すべきか～地域の中の保育施設として～(平山猛/熊本県)
保育義務化と保育登録制、地域への4つのアウトリーチを提言する 10時50分～11時05分
- 社会・地域の全ての子どもをはぐくむ施設のあり方 (勇まり子/三重県)
就労によらない施設入所と5歳児の義務化である 11時05分～11時20分

第3章 望ましい教育・保育の提供をめざして

- 施設の一元化 (松永和孝/熊本県)
総合施設化したこども園へ一元化していくことを望む 11時20分～11時35分
- 施設の基準と職員の専門要件の一元化の望ましい姿 (坂崎力紀/青森県)
個人としてのキャリアアップの位置づけを確立する 11時35分～11時50分
質疑応答&まとめの一言 11時50分～12時00分 (相談役/東ヶ崎静仁)

1日目 11月15日(月)午後の部 13時00分～15時30分担当 保育制度部会 副部長 上原隆寛

3.新たな職種・消える職種・連携する職種 (倉内真理/青森県)

未来を想定し今後の望ましい施設の職員の職種を考える 13時00分～13時15分

4.保育者の働き方の提言 (打田公平/岩手県)

既存の保育の概念を変えていく 13時15分～13時30分

第4章 保育教諭と園児の定数と教員資格化・評価・研修等

1.発達から見る望ましい定数の考え方 (本田小百合/熊本県)

保育士定数の改善こそが質改善の第1歩である 13時30分～13時45分

2.保育と計画の分業化 (隈崎哲也/鹿児島県)

専門化・分業化し協働するチーム作りをする 13時45分～14時00分

質疑応答 14時00分～14時10分 休憩 14時10分～14時20分

3.教員・教諭資格の在り方と保育教諭の働き方 (田中啓昭/大阪府)

シェアリング・アライアンス、それぞれの専門の見地からチーム教育・保育を展開していく 14時20分～14時35分

4.評価制度等の構築 (菊地渉/茨城県)

これからの評価の流れを構築する 14時35分～14時50分

5.研修の在り方 (加藤要貴/長野県)

学び続ける体制と環境づくりを行う 14時50分～15時05分

第5章 要領と指針の真の一元化

1.2025年こども(保育)要領作成に向けて (吉本大樹/熊本県)

今、取り組むべき課題とスマート保育について考える 15時05分～15時20分

質疑応答 15時20分～15時30分

まとめと閉会の言葉 15時30分～ (監事/東口房正)

7 プロポジション研修会(案)◆Contents 2日目

2日目 11月16日(火)午前の部 9時30分～12時00分担当 保育制度部会 部会長代理 椛沢さやか

開会の言葉 部会長 保総研会長挨拶

9時20分～9時30分

2.現要領・指針の精査 (高月善徳/大分県) 9時30分～9時45分

保育所保育指針/認定こども園教育保育要領/幼稚園教育要領について

3.一元化へ向けて (高月美穂/大分県)

未来の子どものために考えること(主体性を育む)を忘れない 9時45分～10時00分

4.新子ども保育要領作成 (岩橋/大分県) ※1)30分対応

2030年施行には一本化した保育の要領で迎えたい 10時00分～10時30分

質疑応答 10時30分～10時40分 休憩 10時40分～10時50分

第6章 様々な地域の施設、保育の方法及び補助事業

1.基本的地域共生社会の実現 (矢野理絵/熊本県)

地域共生社会と共に進む法人改革 10時50分～10時05分

2.地域の捉え方とその保育の在り方

2-1.待機児童地域 (青木恵里佳/東京都) 11時05分～11時20分

2-2.中間地域 (菊池晃/岩手県) 11時20分～11時35分

2-3.過疎地域 (椛沢伊知郎/青森県) 11時35分～11時50分

財源の再配分含めた保育制度改革が必要である

質疑応答&まとめの一言 11時50分～12時00分 (顧問・相談役/椛沢幸苗)

※1)ここはあまりにも量があるため 30分にしてあげたい

2日目11月16日(火)午前の部13時00分～15時30分 担当 保育制度部会 部会長 古川 豊

- 3.子育ての支援関連の現行制度見直しと改善 (塩坂北斗/東京都)
制度の根幹問題と共に全ての子どもに対応した仕組みを望む 13時00分～13時15分
- 4.保育施設のリスクマネジメント (東ヶ崎拓樹/茨城県)
リスクマネジメントの予算配分は必須である 13時15分～13時30分
- 5.障がいの子どもに対する施策について (矢野理絵/熊本県)
期待される取組みとともにインクルーシブ教育について 13時30分～13時45分
- 第7章 財源と今後の法人の在り方**
- 1.法人運営における財源について (伊東俊樹/新潟県)
公定価格と内部留保を組み合わせを進める 13時45分～14時00分
質疑応答 14時00分～14時10分 休憩 14時10分～14時20分
- 2.これからの法人の在り方 (永田久史/大阪府)
保育で生き残る道筋と社会・地域貢献の必要性 14時20分～14時35分
- 3.社会福祉連携推進法人とは (椛沢さやか/青森県)
社会福祉連携推進法人の意義を考える 14時35分～14時50分
- 4.インフラとしての保育所等 3施設類型の是非 (田口侑平/神奈川県)
省庁再編と幼保一元化は必須である 14時50分～15時05分
- 5.現行制度で2040を迎えるために (古川豊/熊本県)
全ての子供を対象として現行制度を新たな仕組みに改善する 15時05分～15時20分
質疑応答 15時20分～15時30分
まとめと閉会の言葉 15時30分～(顧問/伊東一男)

令和3年9月3日

様

保育関係予算・制度等の緊急要望

～コロナ禍における安全・安心な保育に向けて～

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国保育協議会
会 長 奥村 尚三

公益社団法人 全国私立保育連盟
会 長 川下 勝利

社会福祉法人 日本保育協会
理事長 大谷 泰夫

新型コロナウイルス感染症は社会経済に大きな影響を与えています。また、景気だけでなく、労働環境についてもテレワークを始めとした働き方の変化を助長しています。

働き方の変化は、親子関係・絆を強くするプラス面がある一方で、家庭養育におけるつまづきとマルトリートメント(不適切な養育)などのマイナス面もはらんでいます。

新型コロナウイルス感染症流行当初から保育を継続してきた現場職員は、子どもの感染だけでなく職員間、外来者からの感染にも注意を払い、清掃・消毒など日々保育環境の維持に努めています。また、コロナ禍において登園を自粛する家庭に対しても、様々な方法で支援を行ってきました。

今後も、子どもの育ちを保障する保育の継続とともに、新型コロナウイルス感染症への対応が続くことや、これまで以上に、保護者の不安や悩みなど個々の家庭状況を踏まえた養育支援に向き合うこととなるため、次の事項について、補正予算での対応も含め、緊急に要望します。

記

1. 安全・安心な保育の継続に向けて

新型コロナウイルス感染症がさらなる拡大を見せ、変異株は子どもたちへの感染も確認されています。園児への感染防止はもとより、安全・安心に保育が継続できるよう、保育施設等職員へのワクチン優先接種やPCR検査の実施およびその継続、感染防止対策への財政支援などの強化を要望します。

2. 公定価格の充実について

保育人材雇用維持の根幹である公定価格については積み上げ方式を堅持するとともに、保育環境のより一層の向上のため、かつ園児家庭の健全な養育支援に日々努力を惜しまない現場職員に報いるために、更なる処遇改善を要望します。

